



— あの質問のゆくえ —

白鷹若鮎マラソンの開催時期は

毎年9月に行なっている白鷹若鮎マラソンの開催時期の変更は考えられないのか。（平成25年3月議会）

所管答弁

変更できないか検討していきたい

— 昨年、昨年と暑い時期で、昨年は10名がリタイヤし、3～4名が医療機関に搬送されたこともあり、時期の変更ができないか検討していきたい。

どうなった



記録更新をめざして

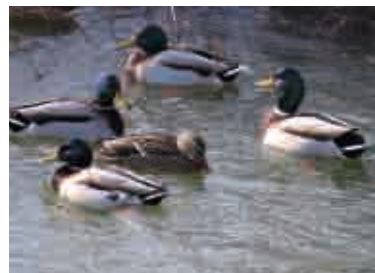
大会開催日の変更

昨年度まで、白鷹若鮎マラソン大会の開催日は9月第3日曜日としてきました。開催時期の変更については、白鷹若鮎マラソン大会実行委員会で検討を重ねていく中、「これまでの実績により全国のランナーの認知度が高い」ことから変更には難色を示す意見も出されましたが、競技者をはじめとした関係者全ての『安全確保』を目的に、9月23日（祝日・秋分の日）に開催することを決定し、今年度の大会から開催日を変更して実施しました。

町民の声

白鷹町の川西・川東地区の地域格差の拡大をひしひしと感じざるを得ない状況です。運転免許証を返納する高齢者が多くなる中で川西地区民は生活用品の買い物は荒砥地区まで行かなければなりません。27年4月からコンビニ納税ができるようになりますが、鮎貝・蚕桑地区には対応できるコンビニが無いようです。高齢者の生活の利便性にはコンパクトシティが良いと叫ばれている中、商業施設等の設置の支援などが望まれるところです。均衡ある住民サービスの提供が大事であり、この格差の解消を本質から考えて解決して欲しいものです。

（鮎貝60代男性）



冬の使者（真がも）



編集後記

明けましておめでとうございます。今年4月、地区公民館はコミュニティセンターに移行し、東西中学校は白鷹中学校としてスタートします。議会報の表紙は中学校統合に向け、2年間とおして中学生に登場してもらいました。子ども達を地域で見守り支え合い、先人から受け継いだ和紙、桜、紅花、白鷹紬など文化伝統歴史を次代につないでいくとともに高齢者や弱者が安心して過ごすことができる地域づくりを励んでいきたいものです。

今年には災害のない穏やかな一年でありますように。

（新野）

広報委員

委員長 佐藤 京一
副委員長・編集長 山田 仁
委員 小口 尚司
委員 新野 いく子
委員 奥山 勝吉
印刷・長谷川印刷